

## 経営一転語 97 社長は年単位でものごとを考える

誰でも、目先の仕事や課題などに取り組んでいれば、何か仕事をした気になって、充実していると考えがちです。

しかし、会社の全員がそのようであれば、近視眼的経営に陥り、会社の将来は危ういと言えます。

従業員は、目先の仕事、現実的な課題の処理、様々な仕事がありますから、従業員にそれを求めてはいけません。

「将来のことを考え、将来のために今のうちに手を打っていく」のが社長の仕事です。

従業員には月単位でものごとを考えてもらうとよいでしょう。

社長は年単位でものごとを考え、何年も先のことを考えることです。

どんなことでも、会社にとって重要な革新であれば、それを軌道に乗せるのに少なくとも2年や3年はかかり、実りあるものにするには5年くらいはかかってしまうものです。

であるなら、5年後にはこうなりたいとビジョンを描いたならば、それを実現するためには、今現在、5年後に向けて行動を起こさなければならないのです。

そして、5年後にこうあるためには、3年後にはどうなっていなければならない、2年後にはこうなっていなければならない、1年後にはこうなっていなければならないという「中間目標」が必要なのです。

それらの目標を達成するための様々な活動と、その間のバランスをとらなければなりません。

このようにして初めて目標が達成されていくのです。